

足利赤十字病院神経精神科を受診された患者様へ

当院では下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されていない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名	高次脳機能障害を持つ患者の尿失禁に対する神経心理学的要因の検討
当院の研究責任者	船山道隆（神経精神科）
他の研究機関および各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	<p>【目的】 高次脳機能障害を持つ患者様のご家族が介護する中で最も困難な要因のひとつである尿失禁が、どのような神経心理学的要因によって出現するかを明らかにすることを目的としました。</p> <p>【背景】 高次脳機能障害を持つ患者様の中には約 15%程度の割合で尿失禁を起こしてしまう患者様がいらっしゃいます。脳損傷と関連する尿失禁は主に前頭葉や前頭葉と関連する部位の損傷と関係すると言われております。しかし、どのような神経学的所見（例えば注意障害や見当識障害など）と関連するかは明らかではありません。われわれはこの点を明らかにして、高次脳機能障害における尿失禁のメカニズムに迫り、介護の軽減につながる方略の構築を目標としています。</p> <p>【対象】 2020年4月から2021年12月に当院神経精神科の高次脳機能外来に通院した脳卒中後の患者様の中で、ご家族が同伴された78名を対象としています。尿失禁は本人に自覚がない場合があるため、ご家族にルーチンで聞いていた尿失禁の程度が必要な情報となります。したがって、ご家族が同伴された患者様に限定しています。脳卒中後の患者様に限定した理由は、疾患を限定してよりクリアなデータにするためです。</p> <p>【方法】 過去のカルテから、尿失禁、年齢、性別、生活自立度、水頭症の既往、運動機能（上肢および下肢の麻痺）、ルーチンとなっている神経心理所見（知能、記憶、遂行機能、見当識、注意機能、脱抑制、失語症、失行症、半側空間無視や視野欠損）の内容を抽出し、多変量線形回帰にて統計処理を行います。責任病巣についてはMRIcron というソフトにマニュアル手法にて病巣を描いた上で NMP というソフトに尿失禁の状態を組み込み、Brunner-Munzel 検定で統計解析を行い、尿失禁に最も関連する病巣を求めます。</p> <p>【予想される結果】 尿失禁には注意障害と脱抑制が関連し、病巣は前頭葉内側部が関連することが予想されます。</p>

調査データ該当期間	2020年4月から2021年12月までの診療情報を対象としています。
研究の方法	<p>★対象となる患者様</p> <p>2020年4月から2021年12月に当院神経精神科の高次脳機能外来に通院した患者様です。</p> <p>★利用する情報</p> <p>診療録に記載されている過去のカルテから、尿失禁、年齢、性別、生活自立度、水頭症の既往、運動機能（上肢および下肢の麻痺）、ルーチンとなっている神経心理所見（知能、記憶、遂行機能、見当識、注意機能、脱抑制、失語症、失行症、半側空間無視や視野欠損）の情報を抽出します。MRIのデータはマニュアル手法にてMRIcroというソフトに組み込み、多数例での解析データを出します。</p>
情報の他の研究機関への提供	なし
個人情報の取り扱い	利用する情報から患者様を直接特定できる個人情報は削除しています。また研究成果は学会発表や論文を予定していますが、その際も患者様を直接特定できない形式となっています。
本研究の資金、利益相反	ありません
お問い合わせ先	電話 0284-21-0121 担当者：神経精神科 船山道隆